

<p>東部地域一体でのまちづくり</p>	<p>桃花台 NT を含む東部地域全体のこれからのまちづくりを考える必要がある。 今後の東部地域全体の再生を考えると、NT 周辺の農村部と NT の連携を考えていく必要がある。 NT 周辺地域の再生と桃花台 NT との融合が重要。 NT のみの「純住宅」での課題解決は困難。(純住宅からの脱却)</p>
<p>柔軟性・可変性を持ったまちづくり 地域住民による自立したまちづくり</p>	<p>長期ビジョン・短期ビジョンが必要。 「ゲスト」から「ホスト」への意識の醸成。</p>
<p>住む・暮らす</p>	<p>若い人が居住していて「楽しい」と思える仕掛けづくりが重要。 こどものまちづくりへの関わり。 こども・夢チャレンジ No.1 都市宣言をしており、こどもを中心にまちづくりをしている。 持続可能なまちとすることで「帰ってきたい」「子育てしたい」につなげることが重要。 「戻ってきてもらえるまち」「新たに住みたいと思われるまち」の両面で考える必要がある。さらなる魅力向上と定住促進を含めた将来像を描いていきたい。 大学進学の際転出した若者は帰ってくることは極めて少ない。 今後増えるノマドワーカーの受け入れ環境の整備。 公共交通が脆弱。桃花台 NT には電車が通っていない。 学校統廃合の活用⇒体育館をこども施設「KID-O-KID」などと連携することで人を呼び込む。 桃花台 NT は非常に高齢化率が高い。⇒5年先まちが存続できるのか。 交通対策は個別対応が必要。⇒ボランティアタクシーやデマンドタクシーなど 小牧版「CCRC」の検討。</p>
<p>働く</p>	<p>桃などの資源や風景的な価値を継承していく担い手の問題。 持続性を考えると「働く場所(家業)」は重要。 地域資源(自然、産業、農業、工業、大学)の活用が重要。 住宅政策ではなく産業政策が重要。 企業誘致から起業支援への転換。 女性がパート等で働ける環境、夫婦2馬力で働ける環境の整備が重要。 現代は PC1 台で働ける時代。空き家等を活用して、家ではなく、主婦が集まり働ける環境を整備してもいい。 《再掲》今後増えるノマドワーカーの受け入れ環境の整備。 尾張北部での市としては、唯一ベッドタウンではなく、外から働きにくるまちである。 東部地域は面積のわりに工業の集積度が低い。 「生業」「働く場所」、産業振興が重要。 ハイウェイオアシス、スマート IC の建設と桃などの特産品と連携させることで東部の活性化を図りたい。 ベンチャーを支援する環境整備。実験フィールド(宇宙関連・農業関連など)としての活用。</p>
<p>既存ストック</p>	<p>《再掲》現代は PC1 台で働ける時代。空き家等を活用して、家ではなく、主婦が集まり働ける環境を整備してもいい。 土地利用が固定される NT で、人口減少により活用できる用地が発生する可能性がある。 公園・緑道など整備されたまちをどう使いこなしていくか考えていく必要がある。</p>
<p>資源</p>	<p>周辺地域を「小牧の奥座敷的価値」としての活用。 《再掲》桃などという資源や風景的な価値を継承していく担い手の問題。 名古屋コーチンの発祥の地による活性化。池之内の碑のある場所は、草等が生い茂っていて訪れる人はいない。 《再掲》ハイウェイオアシス、スマート IC の建設と桃などの特産品と連携させることで東部の活性化を図りたい。 《再掲》地域資源(自然、産業、農業、工業、大学)の活用が重要。</p>
<p>情報発信</p>	<p>イメージ戦略⇒ニュータウンというだけでイメージが悪いと思われてしまっている。</p>
<p>地域協働</p>	<p>《再掲》「ゲスト」から「ホスト」への意識の醸成。 泉北 NT では、大阪市立大学と連携しながら若年世代のライフスタイル、需要に合うような戸建住宅リニューアルに対応している。</p>